

# 内部統制報告書

(金融商品取引法第24条の4の4第1項に基づく報告書)

|         |   |            |
|---------|---|------------|
| 事業年度    | 自 | 平成23年4月1日  |
| (第168期) | 至 | 平成24年3月31日 |

株式会社日清製粉グループ本社

(E00346)

目次

|                                   | 頁 |
|-----------------------------------|---|
| 表紙                                |   |
| 1. 財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項 ..... | 1 |
| 2. 評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項 .....    | 1 |
| 3. 評価結果に関する事項 .....               | 1 |
| 4. 付記事項 .....                     | 1 |
| 5. 特記事項 .....                     | 1 |

## 【表紙】

|                |                                                                       |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------|
| 【提出書類】         | 内部統制報告書                                                               |
| 【根拠条文】         | 金融商品取引法第24条の4の4第1項                                                    |
| 【提出先】          | 関東財務局長                                                                |
| 【提出日】          | 平成24年6月27日                                                            |
| 【会社名】          | 株式会社日清製粉グループ本社                                                        |
| 【英訳名】          | NISSHIN SEIFUN GROUP INC.                                             |
| 【代表者の役職氏名】     | 取締役社長 大枝 宏之                                                           |
| 【最高財務責任者の役職氏名】 | 該当事項はありません。                                                           |
| 【本店の所在の場所】     | 東京都千代田区神田錦町一丁目25番地                                                    |
| 【縦覧に供する場所】     | 株式会社東京証券取引所<br>(東京都中央区日本橋兜町2番1号)<br>株式会社大阪証券取引所<br>(大阪府中央区北浜一丁目8番16号) |

## 1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

当社取締役社長大枝宏之は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

## 2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当社の第168期事業年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）の末日である平成24年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定した業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価するとともに、関連するITに係る内部統制も評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社並びに連結子会社及び持分法適用会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社36社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。また、決算・財務報告に係る業務プロセスのうち全社的な観点で評価することが適切と考えられるものについては、全社的な内部統制と同範囲について評価いたしました。なお、連結子会社9社及び持分法適用会社9社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、評価範囲には含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2／3に達している3事業拠点を「重要な事業拠点」といたしました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、受取手形及び売掛金、たな卸資産に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスや、リスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスについて、財務報告への影響を勘案し、個別に重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

## 3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

## 4 【付記事項】

該当事項はありません。

## 5 【特記事項】

該当事項はありません。